

＜過去1週間の動き＞

(9月22日～9月28日)

USD/ZAR: 17.4425～18.2225

ZAR/JPY: 7.94～8.24 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、予想外に、明確な下落を見せた。対ドルで、上昇の先行から、反落。26日には、2020年5月来28ヵ月ぶりに18.0を割り込み、18.1300まで安値を更新。以降、27日には一旦17.8500までの反発を見せたものの、翌28日には再び18.2225まで安値を更新、同日中に17.8125まで反発と、18.0を挟んだ安値水準で、激しい上下動を見せた。対円でも上昇が先行したものの、22日の東京時間夕方に財務省(日銀)が円買い為替介入を実施。急反落後、8円挟みの狭い値幅を、対ドルでの上下動に合わせて上下動した。南ア要因では、22日の南ア準備銀金融政策委員会が相応の注目を集めた。政策金利の75b.p.引き上げは市場全般の一致した予想に沿った内容だったものの、同決定は3対2の過半数で、反対票の2票が+100b.p.幅の利上げであった事実は、「予想外に鷹派的」と受け止めることもできた。米連銀や欧州中銀の鷹派姿勢(積極的な利上げ姿勢)が通貨押し上げ要因と読まれる傾向にある昨今で、これはランド押し上げ要因と読むこともできたが、ランドの反発は一時的で、かつ小幅にとどまった。前後して金融市場の耳目は、上述円買い介入に集中していたし、米連銀の大幅利上げ(21日の+75b.p.)は景気抑制要因として、世界的な株、債券、商品などの価格の重石になっていた。景気減速懸念は、新興市場経済からの投資資金引き揚げ警戒感、資源需要低迷懸念という二重の意味でランド売り要因となった。並行して、この間、南ア電力公社(Eskom)による計画停電が継続していたことも、ランドには重石となっていたであろう。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/22	13:12	南ア準備銀レボ金利		6.25%	6.25%	5.50%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(9月29日～10月5日)

USD/ZAR: 17.600～18.100

ZAR/JPY: 8.00～8.20

向こう1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、安値圏での膠着を予想。22日の利上げで、南ア準備銀の政策金利は「コロナ前の水準を回復」した(注)。一方で、足元ランド(対ドル)は、相応に反発したとはいえ、2020年8月につけた安値17.7800を割り込んだままで、世界的なコロナ禍第1波局面(2020年2～4月)における急落後の安値水準に落ち込んだままとと言える。安値圏における膠着を予想するのは、ランドがこの低迷を抜け出すための要因を思い描くことができないから。南ア政局では、28日、与党アフリカ民族会議(ANC)の最大の支持基盤であるクワズール・ナタール州の同党支部が、12月に予定される党首選においてムクヒゼ前保険相を党首(大統領)候補として推す方針を発表したものの、これは想定内の動きと言え、引き続きラマポーザ大統領の続投予想は揺るがない。ただ、ここまで取引水準を切り下げたランドの反発を促すのに、「予想の範囲」の動きでは材料として物足りないのは間違いない。21日の米連銀利上げ以降一方的な下落が続いていた世界的な株価全般や、プラチナ、原油など商品の一部に、28日に前後して、反発の兆しが見取れたのも、ランドにとって好材料には違いないが、僅か1日余りの小反発では、ランドの反発に力不足の感は否めない。ひとつ潮目を変え得る材料として、ここもと連日の計画停電が解消(少なくとも一服)する可能性を挙げることはでき、29日に予定されるラマポーザ大統領の電力供給問題に関する議会証言(Eskom経営陣刷新?)に期待したい気持ちはある。しかし、同大統領が、26日、自ら述べた通り、電力不足は一朝一夕に解消するような問題ではなく、過去の経緯に鑑みても、過度の期待は禁物と思われる。

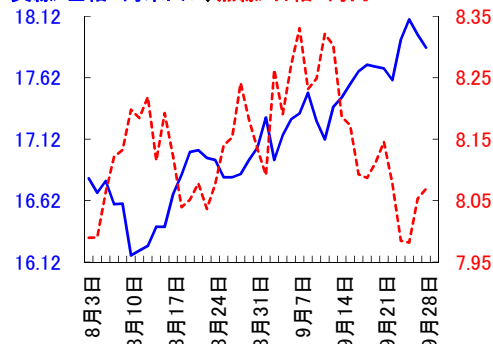
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/29	6:00	民間部門信用(前年比)	8月		+6.80%	+7.06%r
9/30	12:00	貿易収支(ZAR)	8月		+23.7bn	+24.8bn
	12:00	財政収支(ZAR)	8月		-45.0bn	-129.5bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

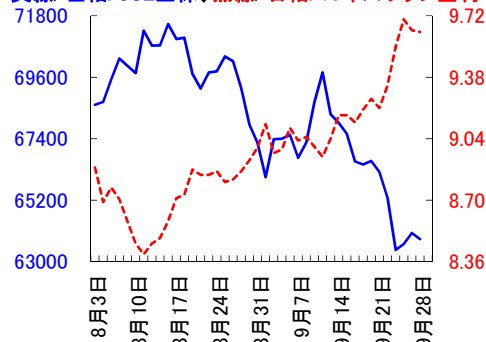
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		6.25%
長期金利(10年スワップ)	9月28日	9.630%
株価指数(JSE全株)	9月28日	63808.32
成長率(GDP/前年比)	Q2	+0.2%
経常収支(ZAR)	Q2	-87bn
失業率	Q2	33.9%
消費者物価(前年比)	8月	+7.6%
小売売上高(前年比)	7月	+8.6%
製造業生産(前年比)	7月	+3.7%
鉱業生産(前年比)	7月	-8.4%
貿易収支(ZAR)	7月	+24.8bn
金価格(ロンドン17:00)	9月28日	1658.91

(注) 同金利は2020年1月16日の25b.p.利下げまで6.50%だったが、同年3月に「コロナ対策」の大幅利下げが始まる時点で6.25%だった

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。